

想

特集 開放型病床の開設

婦人科における最近の話題

～婦人科 主任医長 進岳史～

新任ドクター紹介

旬の味だより

～夏野菜の揚げ浸し～

JR九州病院 広報誌「そう」第15号



題名：こっち向いて
撮影：蒲原教雄（NTTパソコンセミナーOBデジカメクラブ）
撮影場所：中津市三光コスモス園
撮影者コメント：休耕田を利用して秋には100万本のコスモスで花の絨毯になります。

'10 夏

JR九州病院

婦人科における最近の話題 —子宮頸がんとその予防ワクチンについて—

進 岳史

J R九州病院 婦人科 主任医長



1. 子宮頸がんとは

子宮がんは頸がんと体がんがあり、各々の発生部位はもちろん、組織型やリスクファクター、発生しやすい年齢層が異なります。頸がんは性交渉によるヒトパピローマウイルス（以下HPV）の感染により発生すると分かってきました。

そのウイルスのサブタイプは100種類以上と沢山あり、「いぼ」の原因ウイルスとして知られていますが、癌化に関与するサブタイプは15種類ほどで、その中でも特にハイリスクタイプは16型と18型の二つで70%を占めるとされています。ありふれたウイルスで感染の機会是非常に高く、性交渉があれば全人口の80%ほどは、いつの時点かで感染しているとのこと。感染しても大部分の人は数週間でウイルスを自然に排除してしまうのですが、一部の人々が持続感染のまま異型上皮となり、さらに頸がんを発症してしまいます。

感染したウイルスは局所の上皮にとどまり血中には入っていかないため抗体の産生は起きにくく、このため感染の有無の検査には、血中の抗体価の測定ではできず、癌検診の細胞診を採取するとき、同時に局所の上皮を採取して行います。

頸がんは初期には自覚症状が全くなく、出血などの症状があるときにはすでに1b期から3期に進行しており、症状のない人への検診が勧められます。以前は30歳からの公費補助での検診でしたが、初交年齢の若年化に伴い20歳代でも異型上皮や頸がんの発生頻度が増加しつつあり性交渉のある年齢になったら検診に受診すべきです。欧米では子宮がん検診の受診率が60~80%であるのに対し、日本での検診率は10~20%と低く、特に北九州地区では10%以下となっています。

2. 予防ワクチンについて

2009年12月に、日本でもようやく子宮頸がんの予防ワクチンが認可・発売されました。上記の背景を踏まえ、日本でもワクチンの接種が早急に行われることが大切ではありますが、接種は初回、1ヶ月後、6ヶ月後の3回必要となり合計費用は4~5万円かかりそうです。欧米では全額公費負担や、それに近い補助があるとの情報ですが、日本では今のところ全額自費となりそうです。経済的に厳しい方や性交渉の若年化や、パートナーが複数存在するなど、HPVの感染リスクが高い傾向があることを考えると、是非とも公費での全員接種が望まれます。

実際的な使用は初交前の接種が必要で、中高校生でも女子の性交渉頻度が増加していることから、12歳頃が勧められています。ワクチンは感染者やがん患者の治療には効果がありませんが、再感染への予防効果を考慮すれば、20歳を過ぎてもワクチンを接種する意義は十分にあります。

HPV16型と18型へのワクチンの予防効果は100%ですが、それ以外のハイリスクウイルスにもある程度の割合で効果があることが分かっています。全体で見ると予防効果は70%ほどの臨床データがあります。そのため接種したからといっても子宮がん検診は今まで通り受診する必要があります。ワクチンの効果期間については、使用開始から6年ほどしか経過しておらず、それまでの効果は確認されていますが、実質何年間の効果があるかは、まだ不明です。将来的には再度の接種が必要になる可能性があります。ワクチン中に抗体産生を高める目的でアジュバントが添加されており、これにより高い中和抗体の産生と持続も長いことが期待されています。

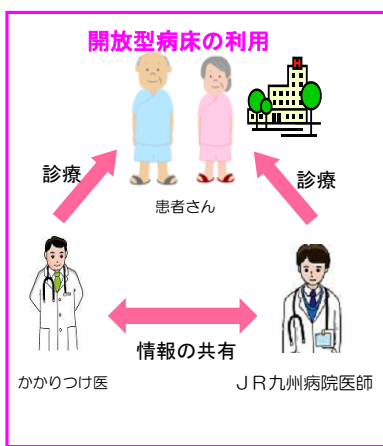
自費で高価なことや他のワクチン接種と同様に副作用に対する心理的な過剰の拒否反応、さらに若年からの性教育などに反対する保護者などがネックとなって予防接種が広がらないことが懸念される場所です。

開放型病床の開設

JR九州病院では、平成22年6月1日より開放型病床を5床開設しました。

【開放型病床とは】

地域のかかりつけ医（登録医）と当院の医師が連携し、紹介いただいた入院治療が必要な患者さんに承認をいただき、共同して病状の問題点をより正確に把握し診断治療を行うための病床のことです。退院後は引き続き、かかりつけ医（登録医）の元で診療を受けていただけます。かかりつけ医の先生方は、開放型病床を利用することにより、当院を訪問し患者さんの入院中の経過を把握することができ、安心して退院後も診療を継続することができます。



登録医紹介	
あすかクリニック	(八坂 明日香先生)
天野医院	(天野 育造先生)
安藤内科循環器科医院	(安藤 文彦先生)
一安医院	(一安 弘文先生)
伊東医院	(伊東 清四郎先生)
井上整形外科医院	(井上 善博先生)
いわさクリニック	(岩佐 隆史先生)
鶴木医院	(鶴木 秀明先生)
大嶋医院	(野田 健一先生)
岡本クリニック	(岡本 高明先生)
木村内科医院	(岡本 正子先生)
くにひろ社ノ木クリニック	(木村 南樹先生)
くらもと内科医院	(國廣 充先生)
後藤皮膚科泌尿器科医院	(木村 洋一先生)
酒井循環器内科	(後藤 安正先生)
白石医院	(酒井 順雄先生)
末永産婦人科麻酔科医院	(白石 公彦先生)
辻医院	(末永 五郎先生)
中村内科医院	(辻 雄一郎先生)
榑崎内科医院	(中村 靖三先生)
にしざわクリニック	(榑崎 健次郎先生)
野口整形外科医院	(西澤 正夫先生)
増田クリニック	(野口 碩雄先生)
門司港腎クリニック	(増田 正徳先生)
よしだクリニック	(田中 秀欣先生)
	(吉田 良先生)



新任ドクター紹介

4月より3人のドクターが赴任しました。

内科 田中 和雄 (たなか かずお)



4月からJR九州病院の療養病棟で勤務しています田中です。長く一般の内科系病院と診療所に勤めていました。当院では一般内科を担当させていただきます。入院では高齢者主体の一般診療に限られますが、今までの経験のうち少しでも皆様のお役に立つようなことがあれば幸いです。

外科 加来 啓三 (かく けいぞう)



4月に九州大学第一外科より当院外科に赴任しました加来と申します。福岡市内各病院、下関での勤務を経ての当院での勤務となります。消化器外科を専門としていますが、救急疾患に加え、乳腺、消化器内視鏡検査と幅広く担当させていただきます。当科へは手術での入院となる事が多く、ご不安も多々あると思われると思います。患者さんには十分な説明のもと、最良の医療の提供を心がけております。お役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

整形外科 加茂 健太 (かも けんた)



平成17年に愛媛大学を卒業し、広島赤十字原爆病院、九州大学病院、山口赤十字病院、八幡総合病院、潤和会総合病院に勤務していました。外傷、リウマチ、股・膝関節を中心に研修してきました。よろしくお願いいたします。

旬の味だより

この季節にピッタリのお料理をご紹介します♪

夏野菜の揚げ浸し



【1人あたりのカロリー】
約150kcal

材料(2人分)

・なす	中1本	・植物油	適量
・ピーマン	1~2個	・だし汁	200cc
・かぼちゃ	80g	・醤油	大さじ2
・トマト	小1個	・みりん	大さじ2
・ささみ	2本	・しょうが(すりおろし)	大さじ1/2
・片栗粉	適量	・唐辛子(お好みで)	適量

作り方

- ① 大きめのボールに調味料を合わせておく
- ② なす、ピーマン、カボチャ、トマトは一口大に切り、
ささみは筋をとりのぞいて一口大に切っておく
- ③ トマト以外の野菜を素揚げし、ささみは片栗粉をまぶして揚げる
- ④ ①のボールに③とトマトを入れてひと混ぜし、ラップして冷蔵庫で冷やす

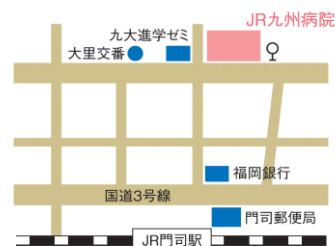
色とりどりの野菜を使うと、自然と栄養バランスがよくなりますよ。

油で揚げているので、食べ過ぎには注意してくださいね！

JR九州病院 管理栄養士 佐伯 昌子



JR九州病院のご案内



〒800-0031 北九州市門司区高田2丁目1番1号

TEL (093) 381-5661
FAX (093) 381-1077

JR門司駅から徒歩10分/西鉄バス高田二丁目下車徒歩1分

JR九州病院 ホームページ

<http://www.jrkyushu-hospital.jp/>

JR九州病院

検索

【当院理念】

私たちJR九州病院は、
安全で良質な医療サービスの提供を通じて、
安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

【当院基本方針】

1. 患者さんの安全と、安心できる医療環境の整備に努め、医学的根拠に基づいた良質な医療の提供を行います。
2. 患者さん、ご家族への説明と同意のもとに、患者さんの意思と権利を尊重した医療を行います。
3. 医療連携を通じ、地域に開かれた中核病院として、医療の充実に努めます。
4. 職員の相互理解とたゆまぬ研鑽を通じて、活気ある職場を目指します。
5. 医療資源の有効活用と健全な病院運営を行います。

編集後記

新緑のまぶしい季節になりました。あっという間に春が過ぎ今年も花見ができなかったことが悔やまれます。私が北九州地区で働くようになって3年目となりますが、未だに地元のイベントに参加していないのが現状です。今年の目標としては、北九州の夏祭りに参加してみたいと思いつつ、まずは花火を見て花見のリベンジをしてみます。

(木村 友幸)

想 (そう) 夏号(通巻15号)
平成22年7月15日発行(季刊)
発行人: 林田 一洋(JR九州病院 院長)

JR九州病院 広報委員会「つばめ」
副院長 亀井 隆史
事務長 藤井 秀一郎
看護部 藤井 美司恵 上堀内 亮子 安成 康介
薬剤科 白江 泰代
中央放射線室 石井 佳人
リハビリテーション室 大島 瑛美子
中央検査室 有吉 大悟
医療連携室 谷川 浩司
総務課 吉田 利枝 木村 友幸

編集・発行・印刷: JR九州病院
北九州市門司区高田2丁目1番1号
TEL 093-381-5661